



愛車と一緒に駐車場で記念撮影。関東一円からの参加で長時間のツーリングにも関わらず、疲れを見せないオーナーの皆さん。



植松社長：Kawasaki Z1000R
二輪への想いは「二輪史に名を残す、永遠のアイドル！今後も最高の絶版車ライフを提案致します」



栗原副工場長：Kawasaki GPZ 900R
二輪への想いは「我が人生の友です。墓まで持って行きます！」



鶴田整備士：Kawasaki 500SS (H1)
二輪への想いは「マッハは俺の恋愛房！絶版車ライフ街道、全開バリバリだぜ!？」



若田整備主任：Kawasaki Z1-A
二輪への想いは「Zに興味がありましたら、先ずは乗ってみて下さい！しっかりサポートします」



西尾整備士：Yamaha RZ250
二輪への想いは「純正ノーマルの外装に拘っています。80'sの2ストは楽しい！」



石川営業主任：Yamaha XS1
二輪への想いは「二気筒親方いつもお世話になります。キャスト手に入れました今度見てください」



小口整備士：Honda CL250
二輪への想いは「頑張り！オレ、CLっ!! まだまだ〜」



峯尾営業部長：Honda MT250
二輪への想いは「愛着湧き過ぎエリー！その全てが魅力です。セーフティ・ライド〜!」

「もちゃ」の駐車で当日初めて顔を合わせて仲間となったオーナー同士が、記念写真を撮ったり連絡先の交換やプライベートツーリングの約束を取り交わして絶版車の輪を広げていた。

全員が揃ったところでマシンを一カ所に集めての記念撮影が行われた。絶版車独特の雰囲気と参加者全員の笑顔が、今日一日の充実感をマシンと共に満喫しているようだった。

快晴の空の下、中央フリーウェイ、富士パノラマライン（国道139号）と走り、途中から合流したマシンを含め26台がほぼ同時に目的地「ドライブインもちゃ」に無事到着した。

ウエマツの想い

加者も充分に楽しんでいただけたが、スタッフはどの様な感想だったのか峯尾氏に聞いてみた。「開催日が平日にも関わらず、皆さん有給休暇を取って来て頂いた方もおり、しかも4月の予定が潰れたのは本当に嬉しい。また、最初に案内させて頂いたルールやマナーをよく守って走行して頂き感謝しています。至らないところもあったと思いますが、今回の経験をウエマツのスタッフと話し、次回もっと楽しんでもらえるツーリングを催したい」と熱く語ってくれた。



最年少参加の遠山章太さん22歳。H2の破天荒なところが気に入っている。すぐウィリーするところなどはたまらないようだ。



最年長参加の布施嘉一さん57歳。今回のZ1000R-2の他、Z2やCB750K0を所有。このような機会が少く、良かったとのこと。

One Day Touring by UEMATSU

シニアもジュニアも同じステージ

絶版車のツーリングにはアクシデントの準備は不可欠だ。当日も中央高速でその年式ゆえ、振動でナンバープレートが外れるマシンがあったし、高速を降りてからは渋滞の洗礼に遭い、オーバードライブになるマシンもあった。

からの戦線離脱をしなくても済むように対処していた。参加者は仲間のライダーの心配をしないで安心して走行を満喫していた。それでも万が一の場合に備えてウエマツはトランポも並走させていた。それぞれに個性を主張するマシンと同様に、オーナーも個性派が揃っていた。最年少は自動車関連の会社にお勤めの遠山さん22歳、最年長は造園業の布施さん57歳と年齢差35だ。年齢差があってもバイクにかかる情熱は同じ。快適なフリーウェイ、清々しい高原の道、暑く苦しい渋滞路も歳の差に関係なく、ライディングは同じステージで操るのだ。オーナーのマシンに注ぐ情熱がマシンの個性を受入れてマシンと一体化できるのだろう。



「もちゃ」の駐車場に到着した絶版車の数々。MACH IIIやZ1000R、CB1100Rなど往時の垂涎の的は現在でも迫力満点だ。